

2024

6・7月

はしかけニューズレター

2024 年度 第2号 通巻 177 号

2024 年(令和 6 年) 6 月 1 日 発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員: 西川)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
(4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
(7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
(10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
(14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
(17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
(23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(6 月～ 7 月)

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

会員数 ... 365人

グループ数 25グループ

(2024年 5月31日現在)

1. 事務局からのお知らせ

琵琶湖博物館周辺では田植えが終わり、水が張られた田んぼ水面に周辺景色が映りこみ、初夏を感じる季節となりました。朝・夕は、散歩しやすい気候ですので、お住まい周辺の田んぼに足を運び、この季節ならではの田んぼ水面に映る風景をお楽しみ頂けると幸いです。今年度より、はしかけ担当となりました西川真里奈です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、事務局よりお知らせがあります。4 点についてご報告いたします。

■第 1 回はしかけ登録講座の会員登録の手続きについて

2024 年 4 月 28 日(日)～2024 年 5 月 12 日(日)に開催しましたオンライン講座で、新規会員登録していただいた方の登録手続きを現在進めております。名札等につきましては、6 月初旬～中旬頃に送付予定です。お時間を頂き申し訳ございませんが、ご了承頂けると幸いです。

■2024 年度 第 2 回はしかけ登録講座

2024 年度第 2 回はしかけ登録講座を下記日程で、オンラインおよび対面にて開催予定です。お近くに、はしかけにご興味をお持ちの方がいらっしゃれば、お知らせ頂けると幸いです。

(オンライン)

日時:2024 年 9 月 8 日(日)～2024 年 9 月 22 日(日)のうち任意の時間 (1 時間半程度)

(対面)

日時:2024 年 9 月 22 日(日) 13 時 30 分～16 時 00 分 (受付時間 13 時 00 分～)

場所:琵琶湖博物館 セミナー室

※詳細は、琵琶湖博物館 HP をご覧くださいませ。

■2024 年度 びわ博フェスについて

2024 年度のびわ博フェスは、11 月 16 日(土)、17 日(日)に開催予定です。

■第32回企画展示「湖底探検Ⅱ ー水中の草原を追うー」について

身近なようで、実は野生の姿があまり知られていない水草について、豊富な水中映像や観測成果をもとに琵琶湖の中での生態や人との関わりについて紹介します。期間は2024年7月20日(土)～11月24日(日)で、企画展示室にて開催します。ぜひ、ご覧ください。

(西川 真里奈)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■3月31日(日)うおの会総会 場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 20名

総会が琵琶湖博物館で行われ、昨年度の活動報告、次年度の活動計画、役員選出など、5つの議題について報告、承認されました。新年度の活動計画は文末に記載しておきます。

総会のあとは、昨年の活動を写真で振り返りました。巨大なスッポン、テナガエビ釣り、泥だらけになった観察会、予想外に多数採れたスゴモロコ、急な雨に降られ寒かったこと、水にはまりかけたこと等々、時折笑いも起きながらの振り返りでした。

最後は、担当の田畑学芸員から、最近滋賀県で在来種が再発見されニュースとなった、ミナミヌマエビについてお話し頂きました。外来種や交雑個体が広く分布する反面、一部に在来種の残存する地域があることが示されました。両者の分布傾向はまだ明確ではないとのことで、次年度の調査でも積極的に採集し、試料提供して行きましょう。



総会前に下物ビオトープでみられたコイの産卵

(報告: 中尾博行)

・2024年度調査計画

- 4/21 第180回定例 天野川(米原市)
- 5/19 第181回定例 野洲川(守山市・野洲市)※毎年定点調査地点とする予定
- 6/16 第182回定例 芹川、犬上川(彦根市)
- 6/23 湖魚調理体験会
- 7/21 第183回定例 大戸川(大津市)
- 8/3 夜間調査 和邇川(大津市)
- 9/15 第184回定例 草津川(草津市・栗東市)
- 10/20 第185回定例 日野川、善光寺川、祖父川、惣四郎川(竜王町)
- 11/17 第186回定例 湖岸道路堤脚水路(高島市)
- 12/15 第187回定例 法竜川(守山市)
- 1/19 午後 勉強会
- 2/16 午後 勉強会
- 3/30 午後 総会 ※最終日曜日

■(中止)4月21日(日)第180回定例調査 場所: 天野川
降雨予報のため中止となりました。

【今後の予定】

定例調査の詳細は開催前にメールにてお知らせします。



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) — 名】

グループ担当職員:橋本 道範

【活動報告】

近江 巡礼の歴史勉強会の活動はありませんでした。

ただし、4月17日(水)に巖峨の千光寺(甲賀准四国 52 番札所)の会式法要に地区代表として参加し、兼帯の天台宗住職と初めての面談を行った。

真言宗系である甲賀准四国の設立に関する詳細と「近江 巡礼の歴史勉強会」の活動について調査資料を提示して説明した。

別件では今郷棚田の自然調査を実施した。絶滅危惧Ⅱ類のヤマトサンショウウオのバナナ状の卵嚢と雄の個体を確認、生息範囲の広がりも確認できた。植物では在来種のカンサイタンポポやシロバナタンポポ、イシモチソウやモウセンゴケ、ハルリンドウなども確認できた。また、蝶類では今郷棚田でジャコウアゲハの雌の飛翔を確認した。野洲川周辺では生息を確認済であるが、今郷棚田での観察は初めてであり新発見である。

【活動予定】

・「甲賀准四国八十八ヶ所」に関連した調査活動として、一ヶ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。

・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を進める。

(福野憲二)



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ担当職員:榎永 一宏

【活動報告】

■ 2024年 4月 28日(日) 花緑公園(野洲市) 参加者 2名

生き物の観察および吟行。

☆ 花緑公園 de 俳句

この日に会った季語は、

コジュケイ、夏鶯、アメンボ、桜の実、シャクナゲ、ユキノシタ、十二単他。

大型連休中ということもあって、到着時、すでに駐車場はいっぱい。

(園内は整備中だったため、三上山登山の人ででしょうか?)

コジュケイの♪チョットコイ、チョットコイ♪という声に誘われて

森の方へ向かうと山雀の声も。

水辺には小さな土色のザリガニやこれもまた小さなアメンボが

スイスイと。一すくい20~30匹はつかまえられそうなくらい

エビがたくさんいました。



※写真/シャクナゲ

【活動予定】

○ 2024年 5月 26日(日) 立木観音(大津市)

集合場所・時間 後日お知らせします。

活動時間 10時30分~(16時)

スケッチおよび散策や吟行をします。

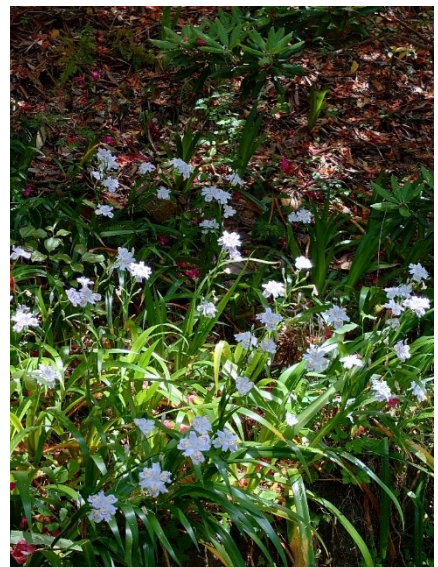
○ 2024年 6月 23日(日) 琵琶湖博物館

オープンラボや館内でスケッチおよび吟行を行います。

活動時間 10時30分~(16時)

※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。

俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。



※写真/シャガ



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18 名】

グループ担当職員: 橋本道範

【活動報告】

■3月23日(土) 参加者:5名

各自、糸紡ぎの作業など。

■4月6日(土) 参加者:4名

各自、糸紡ぎの作業など。

■4月24日(水) 参加者:2名

各自糸紡ぎ作業。最近参加されたメンバーがスピンドルを作りたいとのことなので、次回からスピンドルを作成することにしました。

■5月18日(土) 参加者:7名

今年度は藍染に行くことにしたので、各自糸紡ぎ作業をすすめています。また、前回要望のあったスピンドル作成も行いました。



3月23日 活動風景



5月18日 スピンドル作り

(辻川智代)

【活動予定】

■織姫の会

5月18日(土)、29日(水)、6月15日(土)、26日(水)、

7月10日(水)、27日(土)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16 名】

グループ担当職員: 里口 保文

【活動報告】

■2024年4月の活動

○鉱物・化石展 2024 へ向けて出展準備

日時: 4月12(金) 13:30 から 参加者 5名

場所: 琵琶湖博物館 企画展示室

・表題「滋賀県の花崗岩」の展示について、説明パネルの設置、展示ケース内に採取岩石とキャプションを配置し、地質図上にそれらの採取場所を示した。4月20日オープン of 鉱物・化石展 2024 で皆様に見ていただきます。

○野外調査 福井県大飯町大島半島の超苦鉄質岩類(夜久野オフィオライト)の調査・巡検

日時: 4月20(土) 12:00~16:00 参加者 11名

目的: 普段の調査では、あまり見ることがない玄武岩や斑レイ岩、蛇紋岩、かんらん岩などの超苦鉄質岩類を観察する。

・夜久野オフィオライトの観察

過去の海洋地殻や上部マントルを構成する岩石の層状複合岩体。露頭の岩石は、かんらん岩、蛇紋岩などで、風化面は黒色や青灰色となっている。

・モホロビッチ不連続面の観察

日本で唯一、陸上で見られるモホ面(海洋地殻とマントルの境界)は、黒色岩石、灰緑色濃淡の縞状岩石、灰白色の岩石が層状に現われていた。蛇紋岩、斑輝岩などのように思われる。

・赤礁崎(あかぐりざき)の赤色チャートと砂浜のオリビンサンドの観察

丹波帯の付加体に乗っている超丹波帯の赤色チャート露頭。「ペルム紀の放散虫年代が判明した大飯層模式地となっている」との説明を受けた。近くの砂浜には、かんらん石の砂(オリビンサンド)や砂鉄が他の砂に混じって打ち上げられ、水際は暗オリーブ色となっている。

感想

初めて見るマンツルの石かんらん岩は、黒くて重たかった。風化面は黒色、青灰色の光沢で滑らかである。日本で唯一陸上で見られるモホ面観察では、ワクワク、ドキドキしながら色の違う層状の岩石に見入った。貴重な体験で、この度の巡検計画と詳しい現地説明を頂いた三上さんに感謝申し上げます。

【今後の活動予定】

- 5月18日(土) 野外調査 瀬田川鹿跳橋付近 10時から 雨天中止(前日雨天も中止)
- 6月13日(木) 石灰岩の採取 多賀町権現谷付近 詳細未定



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ担当職員:加藤 秀雄、金尾 滋史

【活動報告】

■4月13日(土) 参加者8名。

総会を開き 2023 年度の活動の振り返りと 2024 年度の活動計画を立てました。

【活動予定】

- 5月18日 彦根市重要伝統的建造物群保存地区で撮影会を実施
- 6月 東近江市八日市周辺で撮影会を実施。
- 7月 長浜市で撮影会を実施
- 8月 琵琶湖博物館内で保管されている画像について情報を共有し今後の活用のあり方を話し合う。

9月以降の活動予定はメーリングリストを活用しながら皆で決める予定です。



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:西川 真里奈

【活動報告】

活動はありませんでした。

【活動予定】

未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:山川 千代美

【活動報告】

■昆虫化石についての勉強会

日時:4月13日(土) 13:00~16:00 場所:琵琶湖博物館 実習室1
参加人数:9名

活動内容:元琵琶湖博物館学芸員の八尋克郎先生にお越しいただき、昆虫化石の勉強会を行いました。

まず始めに、八尋先生が「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」の発掘調査地で採取された昆虫化石を例に、昆虫の体のどの部分にあたるのか、また同定のポイントとその見極めについて、参考資料や論文などの解説をまじえて、分かりやすく講義をしてくださいました。メンバー達からは、昆虫化石のことだけではなく、現生の虫たちや分類などについても次々と質問が出て、とても楽しく勉強することができました。



後半は、昨年度クリーニングに取り組んだ「第十次発掘調査で採取された昆虫化石」を実体顕微鏡で観察しました。これらの化石は、八尋先生と公益財団法人ホシザキグリーン財団の林 成多先生により同定結果が出ています。メンバー達はそれぞれに、まず形がよく残っている昆虫化石を選び、形や表面の模様などを観察しました。その後、残っている部分が少ない昆虫化石も観察し、どの部位のどのあたりが残っているのかなど、資料を見たり、メンバー達と話し合いながら観察していききました。メンバーの中には、最初は同定結果を見ないようにして、自分で観察して昆虫の体のどの部分なのか予測してから、答え合わせをするように同定結果を見る人がいたり、スケッチをしながら観察するなど、資料や標本などを活用しながら、昆虫化石を観察する力をつける方法を各自で考えながら観察しました。



クリーニングをしている時には、標本を壊さないようにとクリーニングを控えている部分もあったのですが、今回、『観察する・同定する』という観点で昆虫化石を見たことで、ここにまだ土が残っている、ここがもう少し見えたらなああと、化石の部位を見分けるために大切な箇所があることに皆が実感として気づきました。昆虫化石を壊さないようにクリーニングするのは本当に難しいのですが、化石の同定には、クリーニングがとても重要だということが改めて分かりました。何の化石なのか見分ける勉強を続けながら、クリーニング技術の向上にも引き続き努力し、調査できる力をつけていきたいです。



■活動紹介のポスター展示

琵琶湖博物館 企画展示室で開催(会期:4月20日～6月2日)の「ギャラリー展示 鉱物・化石展 2024 大地に夢を掘る」に、古琵琶湖発掘調査隊の活動紹介のポスターを展示しました。

■屋外活動のための下見

日時:5月12日(日) 10:00～13:00 場所:滋賀県東近江市 参加人数:4名

活動内容:屋外でのフィールド活動に向けて現地下見を行いました。集合場所に集まった後、スマートフォンで地図を見る方法を学芸員の山川さんに教えていただき、下見をする場所を地図上で確認しました。その後、調査予定地に向かい、危険箇所と思われる場所の確認や、現地でどのようなものが観察できるかなどを下見し、活動内容について話し合いました。

【活動予定】

■未定

【お知らせ】

■現在、古琵琶湖発掘調査隊では、都合により会員の新規加入の募集を停止しております。



(9) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:米田 一紀

【活動報告】

■活動はありませんでした。

【活動予定】

■ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい!」などアイデア・提案があれば、お気軽にお声がけください。いつでもお待ちしております!



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21名】

グループ担当職員:奥田 岬

■4月14日(日) 里山体験教室 下見 参加者11名

この日は日差しも強く、暑い中でしたが、野草を採りながら散策ルートの下見を行いました。どんなものが見られるか、どんなものが採れるかを確認しながら歩きました。例年であれば咲いていることもあるウワミズザクラもまだつぼみで、少し今年は遅

めのようなものでした。散策しながら採った野草はてんぷらにして、会員のみなさんでいただきました。草によってすっぱいものや苦いものがあるなど、見かけと味の特徴を確認することができました。



■4月21日(日) 里山体験教室 本番 一般参加者9名、会員5名

本番の日は、朝から小雨が降るパツとしない天気でしたが、散策中は雨が降ることなく、いろいろな野草や樹木を観察しました。ただ参加者に口頭で解説をするのではなく、葉のにおいを嗅いだり、触ったりして、春の里山を感じながら歩きました。参加者のみなさんも身近な野草から初めてみる野草まで楽しんでもらえたようでした。

午後は丸太切りと木の名札づくりを行いました。最初はのこぎりを使うのが怖いと言っていた参加者もいましたが、しばらくすると、少し切ってみようかなと積極的に参加するようになっていました。あいにく午後からは雨でしたが、ブルーシートを屋根代わりに張った下で、みなさん熱心に取り組んでおられました。丸太を切った後は、紙やすりをかけ、マジックでそれぞれ好きなように名前を書いて木の名札を作りました。次回からこの名札を使ってもらえると嬉しいです。夏の里山体験教室も楽しみです。



■5月9日(木) 潮干狩り 参加者5名

恒例の、三重県御殿場浜での潮干狩りです。JR 野洲駅に集合し、R1 経由で行程80km、約1時間半、強風で薄紫の花序があおられるセンダンの群落が印象的な駐車場に到着しました。里山の会が海に出向くことは、単に海好きが集まっただけでなく「森と海の親密な循環」が自然に関わるものには重要な事柄で、色々な実感を得られることにあります。常に視点と視座を広げることは、ワクワクの心の糧に必要ですね。

御殿場浜は、5年ほど前から津波対策で護岸工事が行われ、工事に伴う発生砂を浜全体の養浜のために搬入されたようにも見受けられました。工事は昨年には終了したようですが、これに伴い浜辺の生物生息環境にも影響があったと思われます。人の暮らしの影響を受けても、元の均衡に戻ろうとする自然界の力はじわじわと継続してくれているはずです。変化はすぐには見えなくても、昨年からのマテ貝の不漁や貝類全体の生息数の減少も、長い目で観察を続けていければと思います。



【今後の活動予定】

6月29日(土) 里山体験教室 下見

7月7日(日) 里山体験教室 本番



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員: 芦谷美奈子

今年は、早くから暖かく3月中旬にソメイヨシノが開花するという予報にもかかわらず、その後急に寒くなり、ふくらみ始めたソメイヨシノもなかなか開花しなかった。その後、4月5～7日に2分咲きから一機に満開になった。例年は平地から山の中腹まで順次咲き、鮎河のうぐい川周辺では他より1週間ほど遅れて満開になっていたが、今年は山の中腹も鮎河も同時に満開を迎えた。

【活動報告】

4月7日（日） 博物館周辺での観察 10:00～13:00 すぎ 参加者6名

博物館の中央玄関横のハウチワカエデの花（まだ雄花しか見つからない、雄しべ7～9本）、イロハカエデ（蕾多い、一部開花）、カツラ（柱頭の形、昨年の実、新葉の出方）から観察スタート。スギナ、つくしの茎の断面は1本の太いストローのまわりに細いストローを組み合わせたようになっていた。毎年見ているシナノキとそこにいるタケウチトゲアワフキを見て、ボダイジュのあるところへ移動。カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カサマグサを見比べ、ノカンゾウ（増えてきていて嬉しい!）、タカサゴユリ、コツボゴケなどをごそごそき分けながら観察していると、不思議な黒いものを見つけた。たぶん腐葉が虫に付くきのこだろうと考え、どのくらい地面に菌糸があるか、冬虫夏草なのかを知るため、落ち葉や柔らかい表土をめくってみた。真っ白い菌糸の広がり（これが本体、上に出てくるものは子実体）があったので、きのこで間違いはないだろう、となった。後日、きのこの専門の方に見て頂き「テングノメシガイ」のなかまでであると分かった。



12:00、タブノキの芽（蕾はまだ）、カイノキ（芽出し）、クスノキ（この時期に一機に古い葉を落としている）を見て、引き返した。去年は花が見られなかったイカリソウは、日当たりの良さを求めたのか、土手の上に移動してきており花も見られた（橋の西側、土手の上に6株）。ブナの新葉の展開のおもしろさ、エノキ、フウ、アカシデ（蕾）、クマシデ（蕾が上部にたった9つ?）、マンサク（新葉）、ムラサキハナナ（花）を見て、樹冠トレイルの下ヘリンボクを探しに入った。真ん中にある1本の他に、生活工房から入ったすぐの所にも幼木が2本あることが分かった。その横のシキミ（満開）、ヤブヘビイチゴ（陰にあるせいか、背が高い）を見て、この日も強制終了13:00・・・。

皆で観察はしていないが、駐車場の開花していた植物。アリアケスミレ（満開）、ヒメスミレ（満開）、トウカイタンポポ（蕾、花、種）、湖岸に1本コブシ（咲き残り）。

3月3日（日） お出かけ観察「みなくち子どもの森」 10:00～14:00 すぎ 参加者 4名

去年は、6月のササユリが咲き誇る時期に訪れたが、今年は違う植物の開花を見るために1ヶ月時期をずらした。

今年、甲賀市は、環境省の自然共生サイトの名乗りを上げた。その中にここ「みなくち子どもの森」（街中にありながら多くの自然を残している）も含まれる。そのことに加え、今までにもここで盗掘された経験上、この記録にはあえて明記しない（ノートの記録はあり）ものもあることを御了承願います。

メンバーを待つ間、駐車場周辺をうろうろ。タカノツメ（花が開くと黄色い）、オニグルミ（雌花柱頭赤い、雄花花序たくさん落ちている）、モチツツジ（満開、ここの花の色は濃いピンク）。

出発後、アズキナシ（花は確認できず）、エゴノキ（蕾、他の所ではすでに開花）、カザグルマ（花・蕾多い、在来植物、がく片白い8、いわゆるテッセンとは別種）、カキツバタ（満開）、ゴウソ（実）、アゼスゲ（花）、ノミノフスマ（花、蕾、比べる予定のノミノツツリは花無し）、カンサイタンポポ（花、蕾）、セイヨウタンポポ（花、種）、ミミナグサ（在来種）、オヘビイチゴ・ヤブヘビイチゴ・ヘビイチゴのちがい、ハゼノキ・オニグルミ・カラスザンショウの葉の見分け方、ヒメコウゾ（花）、ササユリ（蕾、背丈が未だ小さいものが多い、昨年見た場所で）、ハルジオンなどを見ながら東へ。ここで12:15?!

急いで歩くが、チゴユリ（実?）、キッコウハグマ（ロゼットのみ）、分からない葉っぱでストップ。迷った葉の1つはたぶんアカシデ、もう1つは不明のまま。向かい側に大きなツタウルシを発見、今まで見たいと思っていた花も確認できた。4月にたくさん見られた スミレのなかまは、葉のみしか見ることが出来なかった。

そのままぐるっと回って他のものを見て、自然館の前へ帰った。終了はまたもや大幅オーバーの14:00でした。

【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。
- 6月2日（日）栗東自然観察の森 10:00～12:30 ごろ
- 7月以降は未定、 ※8月、2月の活動は、例年お休みしています
- ※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13 名】

グループ担当職員:大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

たんさいぼうの会第77回総会を、4月7日(日)10時から琵琶湖博物館研究交流室で開催しました。参加者はわずか4名でしたが、会長補佐を除く役員が全員出席したので、今後の会の活動についてじっくり話し合いました。そして午後は恒例の花見です。草津川河川敷でブルーシートを広げて、4人でゆっくりしてきました。

たんさいぼうの会メーリングリスト(ML)には、4月8日時点で33名の方が登録し、珪藻に関する情報交換をしてきました。そのうち20名あまりが1年に1回以上メーリングリストに投稿したり、琵琶湖博物館に来館したりして何らかの活動をしてきました。しかしML登録者にはここ数年全く活動に関与していない人や、はしかけ登録を継続しているかどうか不明な人たちがいたため、今春、思い切って登録者の整理を行いました。今年度もはしかけ登録をしているML登録者を会員、今年度ははしかけ登録をしていないがMLでの情報交換継続を希望する人を準会員と定義して意向確認を行ったところ、会員が13名(影の会長含む)、準会員が10名となりました。

意向確認の際に、会員および準会員の皆さんの活動状況報告を頂きました。皆さん忙しいようですが、少しずつでも研究や観察が続けているという報告が多く、ちょっと嬉しくなりました。会員の富さんが5年間かけてゆっくり進めてきた化石珪藻の論文が、もうすぐ投稿できるところまで来ています。他にも野田沼・曾根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)の珪藻研究も、少しずつですが進んでいます。

4月14日(日)に予定していた「たんさいぼうの小さな旅 in 年縞博物館」は、参加者が3人だけになってしまったのでまたも延期になりました。代わりに、本来はその「前座」として道すがら立ち寄るだけのはずだった安曇川に、ミズワタクチビルケイソウの簡易調査に行ってきました。安曇川のミズワタクチビルケイソウは爆発的に増えてはいないものの、村井橋上流あたりでは完全に定着して、限られた範囲で優占種になっています。この周辺に釣りや調査に行く方は、胴長靴や釣具の消毒を忘れないようお願いします。

【活動予定】

7月まで、会の行事は予定されていません。次の総会は9月下旬か10月上旬に開催予定です。個人研究は、これまでと同様に進めていきます。



(13) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 17 名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

寒暖の差が激しい日が続いていて、体調を崩しかけている人もおられるように見受けられます。また、周囲の田んぼを見渡しても、転作されたところや、耕作をやめてしまったと思われるところが増えてきているように感じます。いつもヒメカイエビが見られる大津市唐崎学区の水田を5月10日に観察しましたが、去年に比べて少数が少ないように思いました。生息環境が徐々に厳しくなる中、今年もエビ達は元気な姿を見せてくれるでしょうか。

【活動報告】

・広域調査下見

本年度広域調査を予定している地域のうち、旧八日市市西部を2024年4月5、6、10日に、旧安土町南部を4月11、17日に、彦根市西部と愛荘町・豊郷町を4月13、18日に、また、旧木之本町・高月町を5月10日に下見し、稲作準備の状況を確認しました。

・ミニ田んぼによるカブトエビ類の飼育実験

琵琶湖博物館屋上に設置させていただいている2個のコンテナについて、2024年4月4、12、25日および5月2、8日の5回にわけて、雨水導入による土の軟化、耕耘、注水、代掻の作業を行い、田植えの準備を行いました。

・調査の準備会

2024年5月12日午後、琵琶湖博物館実習室1で採集瓶へのアルコールの封入、ラベル貼付などの調査準備作業と、日程、集合場所の確認を行いました。また、当日午前中に行われた琵琶湖博物館生活実験工房の田植えで余ったみずかがみの苗を譲り受け、博物館屋上のミニ田んぼに植え付けました。



【活動予定】

このニューズレターが発行される頃には一部終了していますが、5月18日に旧安土町南部、5月25日に旧八日市市西部、6月2日に彦根市西部と愛荘町・豊郷町、6月9日に旧木之本町・高月町の高時川流域で調査を行う予定です。詳細は、参加予定者にメールで連絡します。

(山川 栄樹)



(14) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員：芦谷 美奈子

<グループの活動について>

はしかけの皆さま

●「タンポポ調査はしかけ」は活動を停止し、解散する予定です。●

「タンポポ調査・西日本」という参加型広域調査に協力しながらタンポポを学ぶ活動を行ってきましたが、2020年調査のときに新型コロナウイルス拡大防止のために活動が制限され、実質的にグループとしては休止状態になりました。引き続き個人で活動されていたメンバーもいらっしゃるものの、交流担当者から勧告されたようにグループ代表を立てることができず、また別途タンポポ調査自体は動かさなくてはならない担当学芸として、グループの運営を同時進行で続けるのは困難であり、長く悩んだ末にグループの活動停止を決断しました。

このことについて異議がある方、説明が必要な方は、担当学芸である芦谷にお問い合わせください(この記事が掲載されたニューズレターが発行されてから2週間程度で解散手続きをおこないます)。

これまで活動に参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

<「タンポポ調査・西日本2025」そのものは実施中>

はしかけグループはなくなりますが、琵琶湖博物館が滋賀県の実行委員会として行う「タンポポ調査・西日本2025」は現在実施しております。2024年の調査は5月31日で終わりますが、2025年も3月1日から5月31日まで実施します。

調査票がついたチラシは、調査期間に合わせて琵琶湖博物館(主に「おとなのディスカバリー」)でも配布しますし、ウェブからダウンロードもできます。

はしかけ活動に関係なく、ぜひ調査にはご協力ください。よろしくお願いいたします。

【活動報告】

新規の活動報告は特にありません。

【活動予定】

活動予定はありません。

(文責：芦谷)



(15) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員：大久保 実香、松岡 由子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また10時から14時までの一日の活動としています。

【活動報告】

◆4月の活動 4/17(水) 11組(幼児14名、大人12名)

新しい年度となりました。春のひざしたっぷりで暑いくらい。バンダナおじさんに教えてもらって、工房の裏の竹林でタケノコ掘りをしました。竹(モウソウチク)が生えているのは分かりますが、最初は「タケノコはどこ？」とキョロキョロしていました。しばらくすると、目が慣れてきて、茶色のタケノコを発見！スコップで周りを掘ります。お家の人が大きなショベルで掘ると、「取れたータケノコ！」。時には子どもが持てない位の大きなのから、掘ったのが残念な位小さいのまで、いろいろ。

バンダナおじさんに、タケノコのアク抜きを教えてもらって、お家へ持って帰ってもらいました。(みんな美味しく食べられたかなあ？春の味を楽しんでね)

今年もナナフシモドキの子ども達が葉っぱの上に下に揺れています。昨年からたくさん見られるようになりました。もしかすると、鳥に食べられたナナフシモドキの卵が鳥のフンに混ざって、工房の森に落ちて来たかもしれませんね。ナナフシモドキがユラユラとする姿が人気です。

田んぼには水が入り、もち米とミズカガミの苗がきれいにならんでいます。ちこあそでもお野菜を育てようと、イモ苗(鳴門金時、安納芋、シルクスイート)、キュウリ、ナス、万願寺唐辛子、プチトマト、サトイモを植えました。昨年はあまり育たなかったのに、今年こそ大きく収穫するぞと気合が入りました。植え付けた後は、たっぷりお水をあげて、大きな一畝。



【今後の活動予定】びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。8月はお休みです。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！

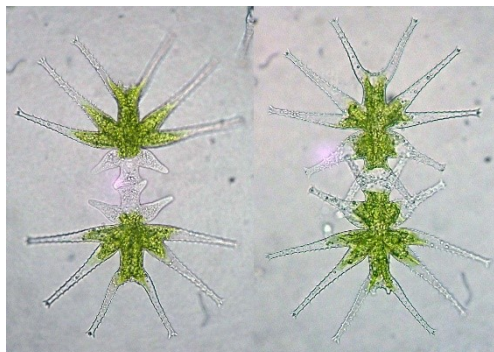


【活動報告日の活動会員数(のべ)28名】

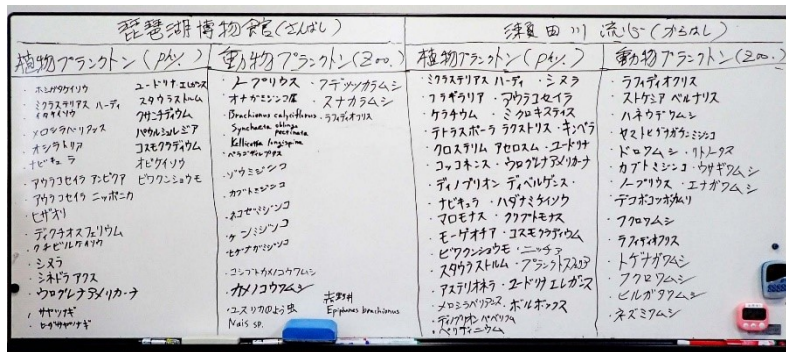
グループ担当職員:大塚 泰介

■ 3月30日(土) 参加者:8名、学芸員:2名、見学1名

博物館付近や瀬田川のプランクトンを観察しました。サンプル中に入っていた分裂途中の *Microsterias hardyi* を長時間観察していると大きく姿を変える様子を見る事が出来ました。ただ、活動時間中には成長の途中までしか観察できなかったのが機会があればまた観察したいです。

分裂途中の *Micrasterias hardyi*

右の写真は左の2時間半後



3月30日に観察したプランクトン

■ 4月21日(日) 参加者:8名、学芸員:2名、見学1名

博物館付近のプランクトンを観察しました。

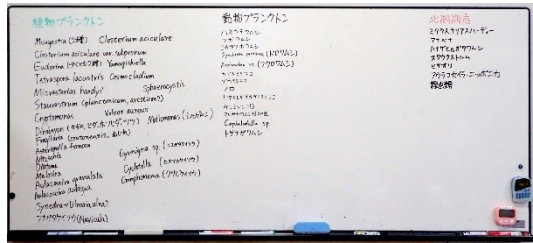
また本会ベテラン会員の方が先日別の場所で行った講演をここでも話して下さいました。普段、生活の中でプランクトンとの関わりを感じることは少ないですがこの講演で身近なところでプランクトンが直接利用されている例を多く知ることが出来ました。



採集の様子



珪藻の講演



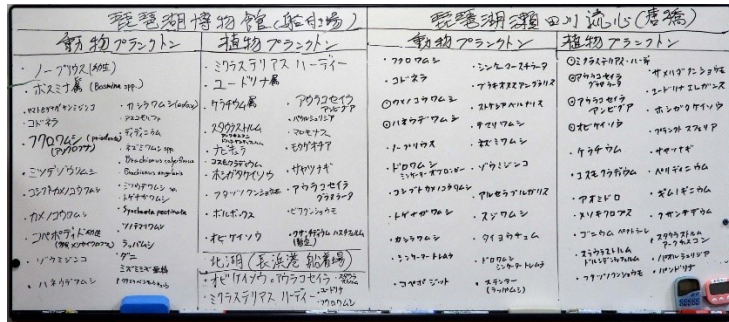
4月21日に観察したプランクトン

■ 5月19日(日) 参加者:12名、学芸員:1名、見学1名

冬から春にかけて南湖で多かったカブトミジンコは今回の活動では全く見る事が出来ませんでした。今回の活動では各々身近な場所のサンプルを持参して観察の方が多かったです。



モニターを使ったプランクトン解説



5月19日に観察したプランクトン

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(17) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員:渡邊 俊洋

【活動報告】

5月11日(土) 春の草花でしおりをつくろう

参加者 23名

わくわく探検隊の春は、定番のしおりづくりです。屋外展示で草花を採集し、実習室で押し花にしてラミネートでしおりを作るプログラムです。今回は、林学芸員と森人の皆さんにご協力頂きました。

まずは屋外展示で、草花を採集しました。森人の皆さんには、参加された親子と交流しながら草花の名前や特徴など話して頂きました。実習室2に戻り、制作の時間は、採集した草花を丁寧に押し花キットに挟み、レンジで温めます。植物の水分や厚みなどで温める時間を調整するのが成功のカギです。午前中に自分たちで制作してレンジの秒数は確認済み。押し花が出来たら専用の紙で草花を配置し、色鉛筆で植物の名前を書いたり飾り付けたりしてラミネートしたら自分だけのしおりが完成です。賑やかな雰囲気、穏やかな集中した時間になりました。出来上がったしおりを大切に持ち帰る参加者(子どもも大人も♪)が印象的でした。

今回のわく探は森人の皆さんにご協力頂いたので、定員より多く参加者を受け入れる事が出来ました。採集や制作中も参加者のサポートに入って下さいました。草花の知識やイベントの進め方など、びわたんも学ぶことが出来たと思います。ありがとうございました☆





(18) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員:半田 直人、松岡 由子

【活動報告】

■4月6日(土) 参加者:2名

猿の骨のスケッチ、ギャラリー展に向けた準備を行いました。

4月20日から琵琶湖博物館で開催予定のギャラリー展「鉱物・化石展」での展示のため、使用する標本やパネルの準備を行いました。

ギャラリー展の主催の湖国モグラの会の方にお誘いいただき、ほねほねくらぶも展示に参加させていただきました。

「鉱物・化石展」という事で、普段は骨をつくる事を主な活動にしているほねほねくらぶとは少し共通点が無いように思われるかと思いますが、今回の展示では、「同定」を主なテーマに化石といろいろな骨を見比べてもらえるような展示を目指して制作しました。

ギャラリー展示「鉱物・化石展 2024 大地に夢を掘る」は6月2日(日)まで、琵琶湖博物館の企画展示室で開催されておりますので、ご来場の際ぜひほねほねくらぶの展示も見いただければと思います。



▲ギャラリー展でのほねほねくらぶの展示の様子です

■4月20日(土) 参加者:6名

ハクビシンの解剖、鳥の解剖、猿の骨のスケッチ、標本の補修作業を行いました。

■5月11日(土) 参加者:3名

カミツキガメの解剖、猿の骨のスケッチ、鳥の骨のクリーニングを行いました。

【活動予定】

6, 7月の活動予定日は現在未定ですが、月に2, 3回の活動を予定しております。



(19) 緑のくすり箱

活動報告日の活動会員数(のべ) 31名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■5月11日(土) 参加者:19名

活動内容:お茶摘み体験(甲賀市鳥居野)

昨年度企画して好評だったお茶摘み体験を今年度も実施いたしました。メンバーの山本さんのアトリエ、甲賀市鳥居野の里山実験室でお茶摘み体験をさせていただきました。滋賀県は日本最古の茶所と言われ、中でも甲賀市は一番の産地です。アトリエの横にあるお茶の木から新芽を採って、お茶を作る工程を教えてくださいました。

今回は、参加人数が多かったので、午前と午後と二部制にさせていただきました。当日はお天気がよく、絶好のお茶摘み日和となりました。メンバーからは、やわらかい新芽を1つずつ丁寧に摘む作業が無心になれるので、とても面白いといった声が聞かれました。中には、差し芽に挑戦してみたいと枝を切って持ち帰っているメンバーもいました。

摘んだものをほうろく鍋に乗せて、蒸していき、もんでからまた炒って、みんなでワイワイしながらお茶を作っていました。1杯めのお茶は、しっかり甘味が出ていて、2杯目は甘味があるが少し苦く、3杯目はスイカズラなど香りのする植物を加えて、と、余すところなくお茶を楽しむことも教えていただきました。野草を使った手作りのお茶菓子も頂きながら、癒しの時間を過ごさせてもらいました。

このお茶作りのおかげでほっとすることができたといった声が多数あり、今年度のお茶摘みの活動では、お茶は体だけでなく、心にも良い影響を与えてくれることが分かりました。(山本さん、大変お世話になりました。)



【参加者の感想】

- ・初のお茶つみとお茶作り、楽しかったです。新緑あふれるそよ風とお茶仕事はゆっくりとした気持ちになりました。
- ・お茶摘みの具合で後の作業の蒸したり、炒ったりするときに影響するんだなあと、何気なく飲んでいたお茶ですが、こんなに手間がかかっていたんだと様々な感動と感謝でした。
- ・奥深いお茶の世界をのぞき見することができ、本当にたのしかったです。今日体験させてもらった手順を思うと、お茶を買うときに有難くて手を合わせてしまいそうです。
- ・(お子さんは)茶摘みからの作業がたのしかったようで、柔らかい葉がモミモミしたらネバネバしてきて最後カラカラになったのが楽しかったそうです。
- ・お茶づくりは蒸されていく中で良い香りに癒され、最後には手がツルツルになりました。出来上がったお茶を頂いたときの口あたりがやわらかく、最後は甘く、いつもバタバタしながら飲んでいるお茶とは違い、久しぶりにほっと癒されました。
- ・手間暇かけるからこそ、お茶のいい香りがたつんだなと実感しました。ヘトヘトの毎日ですが、こんな風に時間を作るのは大事だなあと感じています。
- ・お茶摘みやお茶作りは、親子共々初めてで、貴重な体験をさせていただきました。いつか頂いたクロモジやハッカの香るお菓子も作っておもてなしができるようになりたいです。
- ・お茶は何からできているのかななんて考えたことがなかったけど、新緑のきれいな葉っぱを蒸して揉んで煎る、みんなで一緒に作ることができて楽しかった。

■5月14日(火) 参加者:6名 一般参加者:大人5名 子供1名

活動内容:季節の植物でアロマウォーターを作ろう(生活実験工房)

今年度も琵琶湖博物館イベントの「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」の会に緑のくすり箱と一緒に参加させていただくことになりました。春と秋、年2回です。(今年度から担当される奥田さん、どうぞよろしくお願いいたします。)

まずは一般の参加者の方と、生活実験工房から外へ出て、植物の観察を行いました。この日も大変お天気がよく、ハルジオンやニワゼキショウといった春の花が咲き、ドクダミやヨモギは生き生きと成長していました。

今回はヨモギの蒸留を行いました。ヨモギは大人のディスカバリーから入った中庭で採取しました。やわらかい新芽が出ていて、香りもよいヨモギでした。

今日は、メンバーが手作りした蒸留器を持ってきてくれて、ヨモギと水をミキサーにかけて蒸留してみました。香りに微かな差がありました。青臭い香りのものも採れて、蒸留の仕方で違いが出るのが面白かったです。

出来上がった蒸留水でアロマスプレーを作りましたが、一般の参加者の方々もとても意欲的な方ばかりで、皆さん、楽しんでおられて良かったです。余ったヨモギはゆでて、メンバーで分けました。冷凍しておけば、好きな時に、お餅やお団子などに使えるので便利です。(個人的には油揚げとヨモギのお味噌汁を作ってみようと思っています。)

あと、香りのよいものを、次回の小豆ピローやお香作りに使う用に乾燥させるため、持ち帰りました。



【活動予定】

・6月29日(土)10:00～15:00 小豆ピロー作りとお香作り(実習室2)



(20) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25名】

グループ担当職員:今田 舜介

【活動報告】

■3月16日(土)虫架け総会 参加者:14名

虫架け総会を琵琶湖博物館の生活実験工房で行いました。2024年度に実施したいことの意見をみんなで出し合い、月例会の予定を決めました。2024年度も積極的に活動をしていきます。

■4月7日(日)10時～15時 参加者:11名 長浜市余呉町

湖北の山間部で春の虫の採集・観察会を行いました。当日は天気にも恵まれ、フィールド調査日和になりました。目的のギフチョウにも出会え、他にも虫を見つけることができ有意義な一日でした。



クロハナムグリ



クロナガオサムシ

また、「虫架け通信」65号、66号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

【活動予定】

今年度も1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責:伊東)



(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■3月23日(土)10:00～12:00 参加者:(会員)6名(博物館職員)林

内容:屋外展示に足を運んでもらうためのPR策を検討した。C展示とWEBその他についての、さまざまな改善案が出たが、今後さらに検討の上、優先順位をつけて着手したい。

■ 4月13日(土)11:00～15:30 参加者:(会員)6名(博物館職員)林

内容:大阪市自然史博物館の特別展[自然史のイラストレーション～描いて伝える・描いて楽しむ～]を観覧した。展示されている博物図譜や論文、図鑑などのイラストはそれぞれの目的のために描かれているがその説得力には驚かされた。説明したいことが描き手によってきちんと取捨選択されて描かれているからだろう。写真では表現できないイラストの魅力を堪能した。

■ 4月27日(土)10:00～15:00 参加者:(会員)4名(博物館職員)林

内容:大津市坂本から大宮川沿いの林道の標高約480m付近までを散策した。入り口付近では数株の植栽されたシャクナゲの花が満開であった。木本類はスギ、ヒノキの他にモミ、ツガ、アラカシ(花)、ウラジロガシ(花)、サカキ、ヤシヤブシ、ウリカエデ、サクラ類などが比較的多く、コバノガマズミ(花)、イヌガシ、コゴメウツギ、ミズナラ、イワガラミ、ツルアジサイ、ジャケツイバラ、コバンノキ、アワブキが少ないながら見られた。草本類は鹿が食わないク라마ゴケなどのシダ類やマムシグサ、マツカゼソウが多かった。この他にタニギキョウ(花)、ムラサキサギゴケ(花)、ギンリョウソウ、ミヤマカタバミ、ヤマゴボウ(蕾)、クリンソウ(蕾)、チャルメルソウ(花)なども見ることができた。雨がぱらつく時間帯もあったが美しい新緑の下で快適に散策ができた。(太字は写真あり)



シャクナゲ



コバノガマズミ



ミズナラ



コバンノキ



タニギキョウ



ギンリョウソウ



マツカゼソウ



クリンソウ

■ 5月11日(土)10:00～15:00 参加者:(会員)7名(博物館職員)林

内容:【わくわく探検隊】春の草花でしおりを作ろう!に参加した。午前中に植物の採取場所の下見と葉づくりの体験をした。午後の本番ではまず参加者と一緒に屋外に出て色や形の好きな植物を採取してもらった。実習室では植物を電子レンジで乾燥し、葉の形に配置しラミネーターで葉にする工程で森人は各テーブルに分かれ必要に応じ若干の手伝いをした。参加者は未就学児の家族が多かったが熱心に取り組み感性豊かな作品ができていたと思う。森人のメンバーは葉づくり初体験であったが学んだことを今後の活動に生かしたい。

【今後の予定】

■ 5月25日(土)10:00～12:00 集合場所:研究交流室 内容:屋外展示のPR策の検討

■ 6月8日(土)及び22日(土) 内容は未定

以上



(22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

現在、琵琶湖梁山泊は活動を完全に停止しております。活動を希望される方は、グループ代表メールアドレスまでご一報ください。

【活動予定】

この先の活動予定は今のところありません。

【活動報告・活動予定】

今後の活動方針について協議を進めようとしているところですが、今のところ特に進展はありません。



(24) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:楊 平

【活動報告】

■ 令和6年3月14日(木)9:30-12:00 晴 参加者 6名

1. 活動先: 東近江市 上岸本町一帯
2. 調査目的。

当研究会では、利水・治水事業の歴史の地域調査として、今回は、愛知川北岸の中流域に位置する、上岸本町(かみぎしもとちょう)集落を調査した。愛知川からの引水などにより、水稲耕作を展開してきた富裕な農業地域である。

1) 上岸本町集落の変遷について。

愛知川からの豊かな水利環境を背景に昔から農業が盛んな地域であった。と明治11年「滋賀県物産誌」に記されている。集落の中央部を南北に愛知川低位河岸段丘崖がのび、中岸本町、下岸本町、鯉江町、梅林町、大萩町と接する。

集落名「上岸本」に関して、岸の名称分布は河岸段丘の上段に「岸」「宮ノ北 岸」、下段は「岸の下」「下岸の下」の名称が残っている。通常 岸は海川沿いによくみられるが当地では愛知川河岸段丘崖上段部を岸と呼んでおり興味深い。

2) 地形的特色について。

古い絵図によると、河岸段丘の上段は藪と林に覆われ、一部畑の開墾地がみられる。下段では宅地と田が集中している。旧愛東町は東近江市のなかでも東部で、琵琶湖岸から直線距離で約14kmの内陸に位置する。東は鈴鹿山脈、南は愛知川に限られ、西と北は湖東平野に連続する低地を占めている。最高点は百済寺甲町南部の標高906m、最低点は上岸本町の西方で標高136m、その高度差は、約770mと極めて大きく、変化に富んでいる。

滋賀県において形成時代の古いものから順に最高位、高位、中位、低位の四段の丘群に分類されているが、高位段丘は百済寺町付近に広く分布 中位段丘は平尾町、園町、下中野町、付近に広がる 低位段丘は 当地域で最も広い段丘面で、東は愛東外町、小倉町、曾根町、妹 町、鯉江町、そしてこの上岸本町に広がる。

3) 上岸本町の歴史遺産として。

上岸本町の付近には、上岸本古墳群などの遺跡があったほか、古代に開墾された岸本荘などの荘園や岸本氏といった土豪の在居した記録、そして上岸本城址などの城郭遺跡もあり、古くから人の手による開発が進んだ地域であった。上岸本の小字「岸」には、まご字に「城」と称する一画がある。「近江愛知郡誌」では信長の鯉江城攻めの陣城としている。城址は上岸本集落背後、愛知川の段丘上にあつて、現在 段丘の切岸とした方形の曲輪(くるわ)状遺構と、空堀を隔てて南側にも土塁に囲まれた曲輪状遺構が認められるが、その残存状況はよくわからない。

4) 上岸本町の歴史として。

上岸本町は江戸時代は彦根藩領で村高は485.124石ある。大正8年(1919) 田31町6反、畑15町8反、山林69町1反で合計116町5反。「滋賀県物産誌」によると65軒325人「地勢平坦なりと難なく、運輸便ならず。水利よく稲粱に適す。水害被ることあり」という村であった。昭和56年の国勢調査時には農家58軒、内専業農家11軒は旧愛東町で最も専業農家の多い地区であった。上岸本町は、市街化調整区域であるが平成後期から人口は減少しているが世帯数が増加している。新規分譲住宅や賃貸住宅が建設できない制約地域にも関わらず、増加しているのは、子供家族が核家族化の影響を受け、集落内で独立する傾向と推測される。

5) 灌漑用水・生活用水の関係からみると。

水利は鯉江井(なまずえゆ)・愛知井(えちゆ)に依存していた。集落南西端部では愛知川から水を導く用水路・愛知井が掘削され、集落の北西部の田に水を注いでいる。この愛知井は古代に開発されたと伝わり、用水路は旧湖東町を通り旧愛知川町畑田までの田を潤す大規模用水路である。一方で、田畑の増大に伴い用水の確保が非常に困難となり、江戸時代天明年間には取水口をさらに上流の鯉江に開削しより多くの水の確保に努めている。この間の水路を天明井と呼ぶ。地元では天明井を「一の井」、愛知井を「二ノ井」と呼んでいる。宅地は大きく小字「北出」と「南出」に分けられ、宅地の中央を愛知井が流れ、灌漑用水だけでなく生活用水にも使われていた事が伺える。鯉江井は段丘崖下の小字「殿侯・岸ノ下・下岸ノ下」の田を灌漑し、愛知井(支流)は小字「西浦」などの田を潤していた。段丘上の小字「大割」にも田はあったが、雨水灌漑に依存し用水不足であった。

6) 上岸本町の水利状況と春日祭りの関わり。

上岸本と中岸本の両村落が一定の秩序を保ちつつ共に春日神社を祀る根拠として、人々の伝承の中に両地区の位置付けが水利の関係性によって説明されている事が挙げられる。それは上岸本が中岸本より上流に位置する村落なので両村落の関係性の中では上岸本が中岸本よりも優位性をもっていたということ。実際、両村落における水利関係としては、上岸本の地先に取水口を有し、中岸本からさらに下流の 21 の村々およそ 381 町歩へと水を供給する「愛知井」と呼ばれる用水設備が、現在も重要な水源として機能している。上岸本と中岸本には、春日神社を中心として水利関係による祭祀を構成していると思わせる状況が存在する。二つの村の間には水利関係を媒介とした明確な秩序があり、さらにその各村落の中にも、それぞれ二つの「座」と呼ばれる祭祀組織が構成されていることも特質される。春日神社はまさに、両村落の境界にあるのも理解できる。

7) 上岸本町の集落を歩いてみると

上岸本町の集落を訪問する前に妹町にある松雲寺(臨済宗永源寺派を見学した。八日市方面から県道 217 号を西進して、国道 307 号線の妹町段丘崖の交差点信号を直進すると左側段丘下に松雲寺への上り口がある。急坂の段丘を一気に上ると直ぐ右手が松雲寺の境内につながる。掃き清められた庭に入ると静寂の中に凜とした空気が漂う。縁起は天正 16 年(1588)に定林玄慧によって慈光寺として開かれたのち、延宝 3 年(1675)に永源寺住職の南嶺慧詢(なんれいえじゅん)により中興されたと伝わる。南嶺慧詢は彦根藩 5 代藩主 井伊直興と親交があり、境内には井伊直興の肉髪塔が建立されている。本堂、千体地藏尊、釣鐘堂、慈雨堂、直興肉髪塔も見学した。上岸本町集落を歩く 集落の中央道路脇を今も愛知井が流れており、所々にカワトに残っている。この集落も石垣や建物の基礎には周辺の集落同様 愛知川河原から採取した形の整った丸石が多く使われている。集落の入り口近くには醤油店のレンガ造りの煙突が建っており、今も現役で使っているとの事である。昔は全て自家製造であったが、現在は周辺の同業者と共同で購入した生醤油を手に入れて「火入れ」工程のみを行い、味付けした上、瓶詰めして販売されている。集落の北のはずれ道路沿いには、登録重要文化財の松本家主屋と土蔵がある。昭和8年(1933)頃の本造建築で主屋は元別荘と伝えられ、屋根の高い土蔵の壁面は人造石の研ぎ出し工法と言われ風情を感じる。集落の北、段丘の裾を縫うようにして愛知井が流れており、500m 程離れた所に 上岸本町と隣接する中岸本町が共同で祀る春日神社がある。立派な拝殿と本殿があり、段丘崖を挟んで上下共に広く整備された耕地が広がり、上段側にはメロン栽培用の立派な硬質ハウス、ブドウ栽培用の屋根型ハウスが目についた。断崖脇に 一か所のみ数年耕作放棄して雑草が茂っている箇所も見られたが、放棄地の確認はここだけで、耕作放棄地はほとんどない。東側耕作地の中にある交差点の隅に上岸本古墳群碑が建っており、隣にある石の道標には左八日市 右はくずし字のために読み取れなかった。集落・耕作地ともに整然と整備され、長い歴史が感じられる地である。また、古墳群があったという事実より、昔から住みやすい、住むのには適した地域であったとの想像もつく。



□春日神社 拝殿



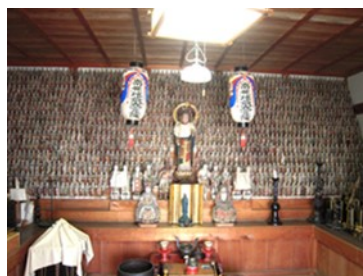
□現在の集落中央の愛知井



□上岸本古墳群の碑



□水田とハウス栽培地域



□松雲寺の千体地藏



□愛知井のカワト

■ 令和6年4月 11 日(木) 9:30-12:00 晴 参加者 7名

- 1, 活動先: 東近江市 大覚寺町一帯
- 2 調査目的。

当研究会では、利水・治水事業の歴史の地域調査として、今回は、東部の鈴鹿山脈の裾野の山際の緩急傾斜地に位置する 35 所帯程度の小集落である大覚寺町を調査した。

- 1)大覚寺町の変遷について。

大覚寺町は旧愛東町の東部に位置し、江戸時代は彦根藩領、明治 22 年(1889) からは角井村に属した。当時愛東町は、北地区(角井村)、南地区(西小椋村)に分かれていた。村高は、「淡海木間攪(おうみこまさらえ)」・明治 5 年の「畔引 民図帳(あぜひき)」(中嶋九平衛門家文書)で 136.521 石、諸郷帳では 138.528 石で「大覚寺村」と記載されている。

* 注釈 淡海木間攪(おうみこまさらえ) 塩野義義陳著・田中信精校訂 によると、彦根藩士塩野義義陳が御鷹奉行として藩主の領内巡行に随行。その見聞を記録し、信精が古典籍や地誌により校訂した。

2) 地形的特色として。

「滋賀県物産誌」によると、地勢凹凸、道路狭隘なれども交通便宜。地味稲梁に適せり。水利常に不便という集落であった。「交通の便宜し」とは、平尾・園と同様に高野街道に沿っていたためであろう。と記されている。

3) 灌漑用水関係として。

明治 4 年頃の「愛知郡大覚寺村絵図」には大覚寺の北や高野街道周辺に二十二か所の溜池が描いてあり、用水不足に苦しんできた村の事情を物語っている。大正 8 年(1919)の農業調査時、二毛作地田が 18 町 4 反、畑が 2 町 5 反あったが、水利は豊国川(とくにいがわ)や牛尾谷(うしおだに)などの溪流、小字「新海・牛堤」などの溜池や野井戸に頼っていた。この時期になっても用水不足は改善されておらず、そのためか同調査では、開墾(水田)の見込みがないと判断している。この事情は永源寺ダムが完成するまで変わらなかった。

4) 大覚寺について。

地名の起こりともなっている天台宗大覚寺は、近江三十三か所巡礼霊場の十七番札所である。天正年間(1573~1592)に兵火にかかり衰退したと伝えられるが、享保 19 年(1734)の近江輿地志略によれば、大覚寺にはなお「本尊観音堂」のほか、観音坊、松寿坊が残っていた。現在背後の山腹に古道跡が残り、門前には「大門・かどや」といった地名が残されている。「かどや」は参拝者の宿泊 施設を指したものと思われる。

5) 大覚寺町の人口動向について。

昭和 56 年現在 34 世帯 130 人、農家数 26 軒であったが、平成 12 年(2000)の国税調査では 31 世帯、111 人のうち 15 歳以上就業者は 58 人で、製造業が 25 人、サービス業 12 人で多数を占め、農業従事者はわずか 4 人にまで減少している。65 歳以上人口が 27 人とやや比率が高い。

6) 大覚寺町の集落を歩いてみると。

県道 508 号から集落への登り道は 4 本ある。北側の坂道は地藏堂・町内集会所を経てまっすぐ大覚寺に続く。すぐ南の坂道是集落の中を抜けて八幡神社の鳥居にたどり着く。さらに南側の 2 本の坂道は軽い段差のある水田を越えて集落に入る。まず北側の坂道を登り始めると左に小さな地藏堂の祠があり、石のお地藏さんが祀られている。進むと町内集会所と手入れの行き届いた広い芝生(地下が防火用水槽と案内)がある。広場の奥の桜並木の下は豊国川の水路である。右手には舟板壁づくりの蔵があり、小さな辻の角に津島講の石碑が祀られている。更に車で坂道を登り詰めるすぐ大覚寺に到着。本堂前に案内の看板が建っており、山道を少し登ると旧本堂跡、行基法印塔があると記されていた。登って来た坂道方面を見下ろすと棚田の向こうに遠く八日市方面の街並みが続いている。棚田の北側 三面張りの小さな川が豊国川の上流部で豊国 上溜・下溜からの水も集めて下流の棚田方面に流れ出している。八幡神社の登り道も鳥居付近から見下ろす集落道路に人の往来はほとんどなく 集落のまん中に以前は溜池として使われていたと思われるような小さな水溜りも確認できた。集落内のほぼ全てのお宅が葦を含め 手入れが行き届いており、豊かな集落であることが伺われる。集落の下段方向 北西側に園場が整備された緩やかな段丘棚田の土手が広がり、隣接する園町方面に整然と続いているのが見下ろせる。帰り道 園町にある農業請負会社の前を抜けて段丘崖から愛知川方面に戻った が、整備された大覚寺町集落は小さな規模でありながら、広い水田を有し、農業を基本の生業とし続けながら、うまく二次・三次産業への勤務とバランスさせている裕福な集落であることを強く感じる事ができた。東近江市の愛知川河岸段丘周辺を集落別に巡っているが、夫々立地条件を生かしながら特徴出しが成されている感を強くした。これらの特徴は比較的市街地に近く水利に恵まれた温暖な気候、市街化調整地域による規制を非常にうまく活用して新たな住民の流入を抑えて、都市化を急がない政策が功を成 していると強く感じた。



□大覚寺 本堂



□大覚寺北側の豊国川への溜池



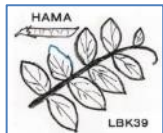
□舟板塀造りの蔵屋敷

* 参考資料として、1)東近江市史愛東の歴史。第一巻、資料編

2)東近江市史愛東の歴史。第三巻、本文編

執筆者

小篠



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

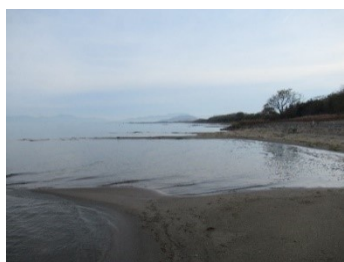
* 2024 年 4 月 2 日(火) 9時30分～11 時 30 分

天候:晴れ 気温13℃(9 時 30 分) 琵琶湖の水位: +14 cm 参加者:5名

観察状況 * 黄砂のためか霞んでいる。春らしく風も暖かい。草の勢いがすごい。

波の音が心地よく水位も高い。対岸の山々はかすんで見えない。

浜は流木とゴミが打ち上げられている。黄砂と花粉でマスクが外せない作業日。



今日の琵琶湖



クロマツの下に生えるハマエンドウ



砂浜を這うハマゴウ

活動内容

* 総会 事業報告・会計報告 事業計画・事業予算 ミーティング(今日の作業予定)

①防風ネット設置(杭を1本打ち込み、5本の竹を支えとして高さ2m・長さ10m 目開き2mm)のネットを保護区北側に設置

②松葉敷き(浜風の通る北側及び直射日光が当たる中央部)

③保護区内除草(ハコベ・オドリコソウ・スズメノカタビラ等)

海浜植物

ハマエンドウ:緑が目立ち葉も大きくなって伸びてきた。ツルができています。花芽はまだ見当たらない。

ハマゴウ:変化なし

ハマヒルガオ:公衆便所のある西側の岩の周辺には新芽が多数見られたが、活動している浜には見当たらない。



ハマエンドウ



ハマゴウ



松葉の散布

作業風景



防風ネット設置前



防風ネット設置中



防風ネット設置後

***2024年4月19日(金) 9時30分～11時30分**

天候:晴れ 気温:13℃(9時30分) 琵琶湖の水位: +23 cm 参加者:5名

観察状況 *黄砂のためか霞んでいる。風は強いが暖かい。浜は北風が強く波も高く荒れている。対岸の山は霞んで見えない。水位が高く、浜は打ち上げられた流木と枯れた葦が埋めている。風の音は高く風もあるが春らしいあたたかな作業日。

定点観測



今日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

活動内容 ①保護区内除草(ハコベ・ヒメオドリコソウ・スズメノカタビラ・オヒシバ・エノコログサ等)

②ツルニチニチソウの除去(保護区外) ③レンゲ草のプランターを設置

④防草シート敷き(保護区内東側1m×10m×2枚)

⑤前回枯れ葉をまいた浜側は防風ネットの効果で枯れ葉は飛んでいない。ハマヒルガオがあちこちに見られる。

海浜植物

ハマエンドウ:3カ所に5輪の花が見られた。つぼみも見えてきた。丈も20cmぐらいに伸びている。

保護区中央及び浜側の北風の当たるところ以外は緑も濃く一面に広がっている。特に、東側に広がってきた。

黄色のモンシロチョウが2匹飛んで、とまっていた。

ハマゴウ:枝の節が少し膨らんできた。

ハマヒルガオ:浜や、保護区内のあちこちに新葉が展開してきた。



ハマエンドウ



節が膨らんできたハマゴウ



ハマヒルガオ



レンゲソウのプランター設置



東側に広がったハマエンドウ



枯れ松葉敷地にハマヒルガオ



⇨ 除草(ツルニチニチソウ)ネット設置完了

以上

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(6月～7月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、
必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
【わくわく探検隊】光と かげで写真を撮ろう ～水の中の植物編～	水草の形・種類・生態などを 学び、青写真の作品作りを 通じて水草の形をとらえま す。	2024 年 6 月 8 日	土	13 時 30 分～ 15 時 00 分	琵琶湖 博物館 実習室2	先着 雨天決行
ちこあそ・6 月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然 遊びや、昔の暮らしの体験 をしたりしながらゆっくりと過 ごすちっちゃな子どもの遊び 場です。	2024 年 6 月 19 日	水	10 時 00 分～ 14 時 00 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込み の上、10 時～14 時の間でご都合 のよい時間帯 に、生活実験工 房にお越しくだ さい。
【わくわく探検隊】骨に 触れてみよう！	骨博士から骨についてのお 話を聞き、普段あまり目にす ることのない骨を実際に見 たり触ったりします。	2024 年 7 月 13 日	土	13 時 30 分～ 15 時 00 分	琵琶湖 博物館 実習室2 C展示室	先着 雨天決行
ちこあそ・7 月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然 遊びや、昔の暮らしの体験 をしたりしながらゆっくりと過 ごすちっちゃな子どもの遊び 場です。	2024 年 7 月 17 日	水	10 時 00 分～ 14 時 00 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込み の上、10 時～14 時の間でご都合 のよい時間帯 に、生活実験工 房にお越しくだ さい。
【田んぼ体験】 昆虫採取	生活実験工房の周辺施設や 水田を利用して、田園空間 の生き物について学ぶこと を目的とし、その一環として 昆虫採集を体験して頂いま す。	2024 年 7 月 28 日	日	10 時 30 分～ 12 時 30 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	虫取り網・かご 等をできるだけ ご持参ください。 暑さ対策をお願い します。 ※雨天中止 ※要事前申込

4. 生活実験工房からのお知らせ

5月12日に田植えイベントを実施しました。当日は、曇りで途中小雨も降りましたが、無事に行事を終えることができました。

参加者の方より、「田植えが楽しかった!」というお言葉を頂きました。参加者の皆様には、楽しみながら農作業をしていただくことができたようで、本当に良かったです。

今後の農作業のイベントは以下のとおりです。

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～) 場所：生活実験工房
稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

- 7月28日(日) 昆虫採集
- 9月8日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)
- 10月13日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)
- 12月22日(日) しめ縄づくり
- 2月9日(日) わら細工



田植え作業前「稲の一生」のお話の様子



田植え作業中の様子

担当:環境学習・交流係

5. その他の事項

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。